



2019年7月8日 発行

第74号

北海道ムーブメント教育研究会会報

今年1月に開催された冬季講習会の様子を御報告いたします。『子どものワクワクを引き出す音遊び』というテーマで、札幌市立栄町小学校にて講習会が行われました。今まで、高倉先生の講座にも時々、御参加くださっていた松川敦子先生に楽しい音遊びを教えてくださいました。二部の前半では、コーディネーターとして高倉弘光先生に音遊びと音楽作りのつながりについてお話しして頂きました。松川先生の軽やかな動きに引き込まれるように、参加者御自身が子どもになった気分で身体を動かし、楽しみながら研修ができました。御参加いただいた皆様には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

～ 子どものワクワクを引き出す音遊び ～

講師 松川 敦子 先生 (はっぴーリズム音楽教室 講師)

第一部 音っておもしろい！楽器に触れる前に

会場の前の机には何やらたくさんの音の出る身辺材や楽器でいっぱい！すべて先生の私物です。それだけで「楽しい音遊びが始まるぞお～」と感ぜられる雰囲気でした。ブラインドボックスによる音のあてっこからグループでの楽器作りへ…。参加者の皆様は夢中になってオリジナルのステキな楽器を作り上げました。発表タイムではグループのパフォーマンスも面白く、笑いと拍手に包まれました。幼稚園、保育園、小学校の生活科や音楽など様々な音楽活動のスタートでの音遊びの大切さを痛感しました。

第二部 音遊びから 音楽作りへ

二部の始まりでは、高倉先生に登場していただき、音楽授業における松川先生が実践されている音遊びの重要性をお話しして頂きました。その後、輪になって、様々な楽器とのふれあいタイムです。トーンチャイム、スリットドラム、ラテン楽器、そして、百元ショップで買い求めたという鳥のおもちゃなど…。どんな物も楽器になるのです。グループでの音出しや全体でのリズムの刻みなど、ファシリテーターの体全体の指揮によって醸し出される約30名のライブセッションは圧巻でした。



～アンケートから～

- ・「人前でやるのが恥ずかしい、間違えたらどうしよう…」そんな不安な道を通らずに、純粋に音を楽しんでほしいと思いました。“表現は楽しい”
- ・初めて参加させていただきました。本校は大規模校でなかなか特別教室が使えません。しかし、本日の講習会では、教室でも生かせるものが多く、休み明けから実践したいと思いました。
- ・音楽作りを実際にやってみて、その楽しさを体験できました。子どもたちが自然とやりたくなる活動を勉強できました。
- ・実際に自分で体を動かして学ぶことは、とても大切だと思いました。子どもたちにも味わわせたいと思いました。

「美意識」が育つ子どもと教師

研究担当 高倉弘光

学校研究。本校ももちろん学校研究に取り組んでいる。3～4年サイクルで一つのテーマを全職員で追いかけている。この6月で四年間取り組んできた『『きめる』学び』の研究が終わった。自分の生き方を自分で決めていけるような人を育てるために、小学校の授業はどうあるべきかを研究してきた。

さて、いよいよ次の研究に向かう。何と不肖この私が研究企画部長となった。いや、「なってしまった」というのが正直な気持ちである。一年前から地下組織として第二研究企画部というのを立ち上げ、自分が選ばせてもらった3人の部員とともに、新テーマについてあれやこれやと話し合ってきた。話し合うだけではなく、この人の話を聞きたいという人にもお会いしてきた。文科省関係、研究者、最近メディアにもよく登場する落合陽一さんにも話を聞かせていただいた。

結果、我々第二研究企画部で考えたテーマは、標題にもある『『美意識』が育つ子どもと教師（仮）』である。テーマを一つ決めるのに多くの時間を割くことはもちろんだが、提案すべきテーマが決まっても、いざ全体の会議で提案すると、必ずと言っていいほど反駁に遭う。「どうしてこのテーマが大事なんだ?」「ドキッとしないな」「こんなテーマなら今すぐ紀要を書けるぞ」などなど厳しい声が飛んでくるのが普通である。

これまで私は第二企画部に三度入っていたが、提案のための会議の日はドキドキしてしかたなかった。今回もそうだった。突拍子もない「美意識」なんていう言葉を入れたから、反駁、反発は免れないだろうと……。ところが、である予想とは反して、「面白そうだ」「どうやって研究を進めるのかい?」「やってみる価値はあるのでは?」という意見が大勢を占めた。正直驚いた。

「えっ? いいんですか、これで?」「ホントに?」

何かの本で読んだことがある。組織において、全員が賛成するプロジェクトは往々にして失敗すると。反対勢力があつてこそ、いろいろな見方や考え方を認識し合い、よりよいプロジェクトに成長するのだ。だから、すんなり通ってしまった今回の「美意識」テーマは要注意だ。



なぜ「美意識」なのか? これまで「知識基盤社会」を前提とした「生きる力」を標榜してきたわけだが、新しい学習指導要領にも「生きる力」の意義を問い直すとして総則に示されている。「知識基盤社会」を超えた予測不可能な時代に突入するからである。私自身は、「知識基盤社会」の次は「美意識基盤社会」と想定すべきだと考えている。「人生100年時代」「AI時代」を生き抜くには、一つの正解を探すような学習ばかりではなく、自らが自らの美意識に従って、自らの幸せを見つけて行く必要があると思うのである。もちろん独りよがりの美意識ではいけない。そんなことを考えて研究を進めたいと思っている。

(たかくら・ひろみつ 筑波大学附属小学校)

北海道ムーブメント教育研究会

令和元年度・事務局体制

会長	大坂 克之 (あいの里大藤幼稚園長)
事務局 総務	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)
研究	上埜 光規 (札幌市立月寒東小学校)
	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
	畠山 美砂 (札幌市立西小学校)
	田尾 明子 (札幌市立新琴似南小学校)
	石田 晃大 (札幌市立共栄小学校)
	国府 由香利 (美深高等養護学校あいべつ校)
	西 祐子
会計	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)
	三上 恵 (岩見沢市立南小学校)
	高澤 伊織 (札幌市立札幌緑小学校)

広報	稲船 志津子 (江差町立南ヶ丘小学校)
	織田 暁知 (札幌市立資生館小学校)
	佐藤 さゆり (石狩市立花川小学校)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似緑小学校)
	中村 真紀
会計監査	大場 隆幸 (札幌市立藻岩南小学校 校長)
	西 宏 (札幌市立茨戸小学校 教頭)
常任顧問	堀田 吉宏 (札幌市立伏見中学校)
	亀山 比佐 (北翔大学)

大坂会長&高倉先生 コラボ！！



本年2月8日(金)9日(土)に開催されました筑波大学附属小学校研修会において、本会員の高倉先生の授業公開後、会長の大坂先生の研修会が行われました。会に参加した本会員広報担当の中村真紀先生に、その報告をしていただきました。

～ 筑波大学附属小学校 学習公開・初等教育研修会に参加して ～

***** 広報担当 中村 真紀

【研究主題】

子どもの「からだ」と音楽、子どもの見方・考え方

重度障がい者の施設で理事長として働いていた経験もある大坂先生は、私たち参加者の表情や状態を的確に見取って研修を進めていた。大坂先生の話聞く参加者たちが活動の意義を感じ始めたところで、音楽活動を入れ、丁度良い頃合いを見計らってまた話を進める。この御本人も参加者も笑顔の絶えない研修会の進め方に、やはりこの先生は“すごい方”だと感心した。その大坂先生の語ったことを以下に記していくと…。

【子どもとの関係について】

- ①子どもを理解するには、自分が変わらなければならぬ。つまり、子どもが変容するには、大人(教師)が変わる必要がある。
- ②子どもに受け入れてもらうことが大事。大人が子どもを受け入れるのではない。
- ③伝わるのは技術ではなく、人柄。
- ④子どもにはこちらの「思い」しか伝わらない。教えたことはだいたい3割程度しか子どもの記憶に残っていない。特に障がい者は。(三年前に来た実習生との関わりを覚えていた障がい者の例から)
- ⑤声も出せなかった障がい者が、数年後、グッデイグッバイを歌えるように(音楽に合わせて声を出せるようになった)なった例。
- ⑥大事なことは子どもが生き生きとしているか、子どもらしいか。先生がその先生らしいか。
- ⑦子どもが伸びるのは自己肯定感があるから。
- ⑧障がい児教育は教育の原点
- ⑨からだの内側から湧き上がってくるものを引き出し、育てるのが教育。

【音楽に関して】

- ①(本来の音楽は、)からだから出るものを表現するのが音楽であって、音楽に合わせるのではない。
 - ②f(フォルテ)は強いという意味ではない。広い、大きいというイメージ
 - ③To move is the source of life, music is also a source of life(動くことは生きることの源、音楽もまた生きることの源)～S.ナビール女史の言葉から
- 《お話の合間の音楽活動》
- ①ピアノに合わせてぶつからないように各自好きな方向に進む。
 - ②ピアノの合図でチームを作る。
 - ③「4人で輪になろう(糸まきまきの旋律)」近くの人と4人組になり、歌って踊る。
 - ④「あたま、肩、ひざ、ポン」の曲に身振りを付けて歌う。(この楽曲を能面のような顔で歌っている参加者たちに、「おかしいなあ(変だ)」と冗談交じりで指摘されました。)
 - ⑤グッデイグッバイを歌う。



『やってみませんか? No.19』 ～発表会に向けての活動～

前回の松川先生の冬季講習を参考に、年少組で楽器遊びをしました。最初はのびのびと“動物表現”を楽しみ、その後に“音当てクイズ”。中身が見えないように『ペットボトルのキャップ』『ストロー』『コーヒー豆』『マカロニ』を封筒に入れ、「何の音かな?」と問い掛けると「えー、何かなあ?」「さっきと音が違う!」等、想像を膨らませます。子ども達は色々な音を聴く中で、自分はこんな音が好き!!と素材を選び鳴らし、試しながら自分のマラカスを作り、最後は音楽に合わせて自由に鳴らし、楽しみました。



2019年度 夏季講習会開催要項

1. テーマ 「子どもと教師と新学習指導要領
～常時活動、音楽づくり、共通教材を中心に～」
2. 日時 2019年8月3日(土) 13:00~16:00
3. 場所 札幌市立月寒東小学校
〒062-0053 札幌市豊平区月寒東3条10丁目1-1
(札幌市営地下鉄・東豊線「月寒中央駅」より徒歩15分)
4. 日程

12:30~	受付
13:00~	開会式
13:05~	第1部 常時活動&即興表現 講師：平野次郎先生 公開指導のモデル児童：札幌市立月寒東小学校 合唱団
14:20~	休憩
14:40~	第2部 音楽づくり&歌唱共通教材 講師：平野次郎先生
15:55~	閉会式

動きやすい服装で
御参加ください。

5. 主催者 北海道ムーブメント教育研究会
事務局 札幌市立栄町小学校内(細貝)
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL: 011-752-4130
6. 後援 札幌市教育委員会(申請中)
7. 参加費 一般3000円、学生2000円
8. 申込み 札幌市立月寒東小学校・上埜 光規 まで FAX 011-851-1619
ホームページからも、申込みができます。

<http://hokkaido-movement.jimdo.com/> 「北海道ムーブメント教育研究会」で検索